

2025年度第1回町田市自殺対策推進委員会 会議録要約

1 日時 2025年5月20日（火） 14時30分～16時30分

2 場所 市庁舎5階5-3会議室

3 出席者

一般社団法人町田市医師会 宮地会長、特定非営利活動法人全国自死遺族総合支援センター 秋田委員、特定非営利活動法人東京多摩いのちの電話 早借委員、八王子労働基準監督署町田支署 鈴鹿委員、町田公共職業安定所（代理）統括職業指導官木下様、警視庁町田警察署 關委員、警視庁南大沢警察署（代理）生活安全課少年係長新妻様、町田消防署 山下委員、町田市民生委員児童委員協議会 藤嶋委員、公益社団法人東京都町田市歯科医師会（代理）事務参与笠原様、一般社団法人町田市薬剤師会 安岡委員、社会福祉法人町田市社会福祉協議会（代理）法人総務課係長和田様、町田商工会議所 青木委員、町田市町内会自治会連合会 中委員、町田市公立小学校長会 山中委員

4 資料

【資料1】町田市内の自殺の状況について

【資料2】町田市の自殺対策推進事業の取組（健康推進課分）について

【資料3】町田市の自殺対策推進事業の取組（関係各課分）について

【資料4】関連団体の自殺対策推進事業の取組について

【資料5】2025年度町田市自殺対策推進委員会委員名簿

【資料6】町田市自殺対策推進委員会設置要綱

【参考資料1】ゲートキーパー啓発ポスター（A4）

【参考資料2】町田市取組：まちだ健康づくり推進プラン24-31進捗シート

【参考資料3】関連団体取組：まちだ健康づくり推進プラン24-31進捗シート

【追加資料】2024年度開催南多摩保健所自殺対策研修チラシ

5 議事要約

（1）開会

委員長の挨拶の後、開会された。

（2）委員自己紹介

各委員より自己紹介を行った。

（3）議事

事務局から資料1に基づき、「町田市内の自殺の状況について」、資料2・3に基づき、「町田市の自殺対策推進事業の取組状況について」、説明した。

(質疑・意見)

委員：自殺者数は、全体で減少、男性の自殺者数が多いのは全体的な傾向だが、男性の方が、自殺遂行能力が高いが、統計上の自殺未遂数は把握しているか。

事務局：自殺未遂者数の正確な数値は把握していない。

会長：自殺者数の月別のデータは把握しているか。先程の説明の中で、2024年9月の総合相談会の相談者数が少なかったが、自殺者数と関連があるか確認したい。総合相談会の開催月について、年によっても違うと思うが、自殺者数が多い月の直前に開催すること等もう少し分析することもよいと感じた。

事務局：自殺者数の月別の人数は、多い方から、1月が11名、6月が9名、10月6名となっている。総合相談会の開催については、国や都の自殺対策の強化期間にあわせることも狙うことに加え、自殺者の傾向やその他要因を確認しながら、よりよい形で開催できるよう検討していく。

会長：先程、東京都の研修チラシの説明があったほか、2024年度の会議でも議題としたが、オーバードーズについて伺いたい。オーバードーズには、いろいろな形があり、処方薬の問題もあるが、最近では、市販薬の乱用についても問題となっている。薬剤師会の方から、何か情報はあるか。

委員：会長の発言のとおり、最近では、処方薬よりも市販薬のオーバードーズがとくに問題となっている。医薬品制度上、個数制限がある処方薬よりも、法律に該当しない医薬品のオーバードーズが増えている。2025年2月に、厚生労働省が、薬剤師の登録販売者を対象としたゲートキーパー薬剤師等対応マニュアルを公表しており、オーバードーズすること自体を否定するのではなく、相談窓口を紹介することやほかの職種につなぐ役割を示すなど、背景にある孤立や生きづらさを抱える方への対応を重視するマニュアルとなっている。その他にも、地域の小中学校に配属されている学校薬剤師が、薬物乱用防止教室を実施する際に使用できる啓発用資材の提供があった。啓発用資材については、過量服薬の危険性、薬の適正使用の説明に加え、生徒にオーバードーズについて考えさせるような内容が含まれている。薬剤師会としては、これらのマニュアルや資材を活用して、オーバードーズの対応にあたりたい。

会長：オーバードーズをする際の薬は、こういった種類のものが多い傾向か。

委員：咳止めや総合感冒薬が主に乱用の恐れがあると考ええる。

会長：咳止めや風邪薬などは一見そこまで危険ではないと考える人もいると思うが、気分を変えるために興味本位から始めているケースが見られる。インターネット上では、薬の過量服薬で気分がよくなる、自殺ができるなど、様々な情報が流れており、そういった情報を若い方が見て、実際にオーバードーズを行っている現状がある。また、薬の入手元については、自分で手に入れることもあると思うが、親が買っているものを子が使うといった場合もある。様々な視点で考えることが必要と感じる。

(4) 情報交換

関連団体の自殺対策推進事業の取組状況について

各委員から資料4に基づき、自殺対策の取組状況について報告があった。

(質疑・意見)

委員：市内の詐欺の件数が多いと聞いたが、どのような状況か。

委員：町田署の管轄している人口は多いため、発生件数としては多く見える。65歳以上だけの特殊詐欺の発生件数は、他と比べても、普通である。

会長：悩みの背景という視点では重要な点の一つである。

委員：過量服薬に関して、処方薬と市販薬でどちらが危険などはあるか。

委員：処方薬は当然危険だが、市販薬も数多く手に入れて過量服用すれば危険となる。

会長：医師の視点では、薬の成分だけを考えれば、処方薬は市販薬より身体に作用する力が強く危険に感じる。一方で、量の観点からは、処方薬は1か月分のみ処方するなど、ある程度コントロールできるが、市販薬は容易に数か月分を入手することが可能である。結局は、手に入り易さやその方の背景による部分が大きい。また、最近、睡眠薬は危険性が指摘されており、安全性に配慮したものもでてきているが、血糖値、血圧を下げる薬などは、危険に感じていて、こういった種類の薬がオーバードーズによくないというよりも、服用の仕方に着目する必要がある。

委員：参考に情報提供ではあるが、町田警察署管内では2024年4月末時点の自殺者数と2025年4月末時点の自殺者数を比較すると7名程度減少している。

会長：全体的に見ると、皆様の活動のおかげで、自殺者は減少傾向にある。デジタル社会が進んでいる中ではあるが、顔をみて、声をかけて、話を聞くことは、地道であるが有効と考える。また、ゲートキーパーの養成講座など、普及啓発を進めて、少しでもいろいろな方に、関心をもっていただくことも重要である。自殺は一つのところで、重点的にやれば減るというのではなく、悩みがあり自殺を考えてしまう人には様々な背景があり、皆様のそれぞれのリソースをどのようにつなげていくかがカギとなる。自殺者数は減少しているため、活動の方向性は自体は間違っていないと考えるが、足りていないところにどうやって力をいれていくか、また、どうやって連携していくか、ということを今後も委員の皆様と考えていきたい。

(5) 閉会

会長から、閉会が宣言された。